

科目名	自立活動の指導の実際 生活編 (S)			B
	実務経験のある教員による授業科目			
サブタイトル	新しいうんどうの構造			
対象学科	人間科学部 心身健康科学科			
担当教員	西郷建彦			
担当教員の 実務経験	特別支援学校において、自立活動教諭や担任などの活動実績がある。また、地域の学習会や教員向けのセミナーなどで、講義や実技指導を行っている。これらに関する特別支援学校教諭及び養護・訓練の教員免許を有している。			
オフィスアワー	非常勤講師のためUHAS@Myキャンパスでの質問箱で随時配布資料や課題についての質問を受け付けます。			
配当年次	1-4	選択	単位数	スクーリング履修：1単位
授業形態	演習			
アクティブラーニング	有			
授業方法	面接授業			
資格等関連科目	自立活動教諭			
科目コード	B153S			
科目区分	こころとからだの関係			
使用教材	教科書	・テキストは資料として準備する。		
	参考書等	・『筋の機能解剖』、John H. Warfel (著) 矢谷令子/小川恵子 (訳)、「医学書院」、1993年、第4版		
授業概要 (目的・ねらい)	本科目は、障害のある子どもたちの日常生活に対するアプローチを扱う。子どもたちに応じた日常生活での学習内容の理解と方法などの習得を図る。また、「日常のうんどう」の学習内容を、実際の生活動作に加えることによって、日常生活への指導プログラムが作成できることを学ぶ。			
テキストの内容 及びアドバイス	テキストは、子どもに応じた日常生活に関する学習内容について、いろいろな指導方法を総合的に使って指導できるよう構成されている。また、必要な医学的知識も自然と覚えられるように構成されている。 テキストの「日常のうんどう」から子どもに応じた日常生活に繋がる学習内容を選び、適切に加えて日常生活に向けての指導プログラムを作成し、実際に子どもたちに行ってください。			
一般目標 (GIO)	自立活動の指導が自信をもって行えるために、子どもたちに応じた日常生活に向けての指導のあり方と指導プログラムの作成及び方法を学び、どんな障害のある子どもたちにも、自立活動における日常生活に向けての指導ができるようにする。			
行動目標・ 到達目標 (SBOs)	<ol style="list-style-type: none"> ①「日常のうんどう」の自立活動における位置づけを説明できる。 ②「日常のうんどう」の自立活動における意義を説明できる。 ③自立活動における日常生活に向けての指導プログラムが作成できる。 ④子どもの障害の状態や行動を受容する態度をもっている。 ⑤子どもの障害の状態や行動に共感する態度をもっている。 ⑥子どもの障害の状態や行動の変化を待つ態度をもっている。 ⑦子どもを包み込むような受容的な触れ方ができる。 ⑧子どもと一緒にいるような共感的なゆらし方ができる。 ⑨子どもの動きを待ちながら動かすことができる。 ⑩神経生理学的な配慮を持って、子どもにアプローチできる。 			
ディプロマポリシーとの関連	心身健康科学科 この科目は、心身健康科学科ディプロマポリシーの <ul style="list-style-type: none"> ・2) 専門的知識を自身や社会・職業上の問題関心と有機的に関連付けて問題を解決する能力を身につけていること ・4) 現代社会と今を生きる人間に深い関心を持ち、新しい展望と視座に立って、心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築に寄与できる能力を身につけていること に関連しています。			
カリキュラムポリシーとの関連				
評価方法・基準	評価基準は人間総合科学大学学則及び学生便覧に記載の基準に準拠する。 講義における授業態度(20%)と指導の実際の手技(80%)の総合評価とする。総合評価で60点以上を合格とする。			
課題に対するフィードバックの方法	スクーリング中に行われる講義に対する質問や実技の際に、教員が受講者の課題に対する理解度を確認しコメントを伝える。			
スクーリング履修における授業準備(予習・復習)の具体的な内容及びそれに必要な時間	【予習】 テキスト(資料)を読んで、疑問点を整理しておく。(1コマ2時間程度) 【復習】 テキストを見ながら、自分で体験する。(1コマ2時間程度)			
スクーリング履修での講義内容	授業計画			

	時限	学習内容	キーワード (重要語句)	担当教員
	1時限	受容器から脳 (感覚系)	受容器と感覚を送る伝達経路および脳での情報処理について学ぶ。 皮膚/筋紡錘/ゴルジ腱器官/半規管/卵形囊/球形囊/脊椎視床路/後索路/触覚/固有覚/前庭覚/感覚統合	西郷建彦
	2時限	脳から効果器 (運動系)	脳における運動プログラムと効果器への情報伝達および運動発達について学ぶ。 錐体路/錐体外路/伸張反射/相反神経支配	西郷建彦
	3時限	効果器と心、総合的アプローチ	効果器と運動への心の関与を学ぶ。 骨/関節/筋 (筋繊維・筋原繊維) /ボディ・イメージ	西郷建彦
	4時限	①姿勢に関するワンポイントアプローチ	姿勢に関する日常生活でのアプローチを学ぶ。 オピストトーンヌス/ヘッドコントロール	西郷建彦
	5時限	②移動に関するワンポイントプログラム	移動に関する日常生活でのアプローチを学ぶ。 関節拘縮/触覚過敏	西郷建彦
	6時限	③操作に関するワンポイントアプローチ	操作に関する日常生活でのアプローチを学ぶ。 触覚における原始系・識別系/感覚統合	西郷建彦
	7時限	④言語・摂食に関するワンポイントアプローチ	言語・摂食に関する日常生活でのアプローチを学ぶ。 発声・嚥下/両唇音・取り込み/舌音・押しつぶし/構音・咀嚼	西郷建彦
	8時限	⑤教科指導などに関するワンポイントアプローチ	教科指導などに関する日常生活でのアプローチを学ぶ。 把握反射/肩甲帯	西郷建彦
授業評価アンケートに基づく改善点	今年より新しく開講した科目となります。このため、評価アンケートデータはありませんが、受講生の皆様のご要望、ご意見等を踏まえて改善してまいりたいと思います。授業評価アンケートについてのご協力、何卒宜しくお願い致します。			
方略	まずは、触れ方、動かし方、ゆらし方の正しい基本手技を再度意識して行うこと。ここでは、少ないポイントとなる箇所を明確に意識しながら、正しい基本手技を使ってお互いに役割 (子ども側、教師側) を交代しながら体験していく。この際施行される側 (子ども側) になった時に感じたことを大切に。ややもすると施行する側 (教師側) に力点が置かれやすいが、あくまでも学修は施行される側 (子ども側) であることを忘れないでほしい。			
連絡事項	「日常のうんどう」は、日常生活でもできる最も少ないプログラムのサンプルでもある。したがって、万が一効果が明確でないときは、中間評価の時に、「日常のうんどう」の修正を「基礎のうんどう」や「課題のうんどう」から検討してほしい。その中で、また観察する力や基本手技の力も増すはずである。とにかく繰り返し実践してほしい。ポイントになる箇所については、参考書などを使い、解剖学的、生理学的な視点も育てるようにする。			